

木津高山線再編について

【現状】

○木津高山線は、鹿背山～山田駅間を奈良交通㈱が運行する路線バスであり、コミュニティバス木-2（鹿背山～高の原）が運行していない、朝と夜の時間帯で運行している。

○以前から利用者が少なく、平成31年度にも再編の協議があり、その際は減便で対応したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、さらに利用者が落ち込み、現状通りの路線維持ができない旨、奈良交通㈱より報告があり、再編を検討することとなった。

※R3.6時点の1便当たりの起終点での乗降人数は、0人～5.5人（平日）

※0人⇒20:10 鹿背山発 21:34 木津駅発

※0.5人⇒6:48 山田川駅発

※5.5人⇒18:40 山田川駅発

※乗降平均：平日 1.9人

○現在木津高山線運行区間での定期購入者は、10名であり全て通勤定期となっている。

当該区間はきのつバスと重複しているため、きのつバス運行時間帯での利用者である可能性があるため、木津高山線運行時間での利用者はさらに少ないと予想される。

○木津川市地域公共交通総合連携協議会事務局と奈良交通㈱との協議により、以下の再編案を考案したので、本協議会にて再編方向性を決定する。

【再編案】

案①：木津高山線を廃止する

- ・当該区間は、現在の利用者数が少なく、今後の利用者数の増加も見込めないため廃止とする。
- ・廃止された後は、木－２運行時間は鹿背山～山田川駅間のバス運行あるため、交通空白地とはならない。
- ・路線廃止後、地元区よりコミュニティバスとしての運行要請があった場合は、第二次木津川市地域公共交通網形成計画に定めるフローにて、導入を検討する。

案②：木－２の運行便数を増やして再編する。

- ・朝２便（６時台鹿背山発、７時台鹿背山発）、夜４便（１７時台鹿背山発、１８時台高の原発、１９時台鹿背山発、２０時台高の原発）を増便し、木津高山線運行区間を補填する。
- ・木－２の増便により、市負担額が３，９６５千円増加する。（概算、国庫補助適用済み）

案③：木津高山線の運行を他事業者に依頼する。

- ・運行のために中型バス車両を準備する必要があるため、運行費総額が高額となる（１０，０００千円超え）ため不採用

案④：朝夜の運行間隔を延ばし、便数を増やさずに可能な限り運行時間を延ばす

- ・現在、木－２は、１時間に１便運行しているところを、木津高山線の廃止区間を補填するため、木－２の運行間隔を一部延ばして運行する。
- ・朝２便（６時台鹿背山発、７時台高の原発）、夜２便（１７時台鹿背山発、１８時台高の原発）を増便し、朝２便（７時４８分鹿背山発、８時４７分高の原発）、夜２便（１７時４７分高の原発、１６時４４分鹿背山発）の便を減便し総便数を同じとする。
- ・本案により、乗務員の拘束時間が増えるため、市負担額が２，０００千円増加する。（概算）

案⑤：案④では利用の多い７時４８分発が無くなる案であるため、より利用者数が少ない、昼間帯の１往復を減便とする。

- ・案④を基本として、朝２便の減便ではなく昼２便（１１時４７分高の原発、１２時４４分鹿背山発）の便を減便とする。